

わたしの天職だから息長く、
絵を描き続けたい

三浦さんが似顔絵に魅了されたのは2008年。名古屋で開催された「似顔絵登竜門」という大会で準優勝したのがきっかけでした。それから4年後の昨年11月、似顔絵大会の中では最も大規模だという、アメリカで開催された「世界似顔絵大会（ISSCA）」のベストカラーテクニク部門で、見事、優勝を果たしました。

【モデルの魅力を最大限に】
似顔絵に与えられる時間は、8分から15分。対面して、他愛もない話をしながら、向き合う相手の一瞬の表情や特徴を捉え、描いていきます。似顔絵描きには、「会話して、似ていて、早い」の3拍子が要求されます。



「アメリカ大会では、4日間も会場内にこもって、絵描き同士で互いを描くんです。私も片言の英語でコミュニケーションをとりながら、相手の魅力を最大限に引き出し

た三浦さんは、いつも何か「ちょこちょこ」描いていたといいます。「絵を描きたくて高校、大学と芸術の道へ進みました。卒業後は、絵画修復師に弟子入りしましたが、



似顔絵アーティスト
三浦 知尋さん（金谷東町出身）

て描きました。部門賞で優勝したときは、一緒に頑張ってきた仲間感謝しました」

【ずっと絵描きになりたかった】
小さな頃から絵が好きだった

やはり自分で描きたいという思いが強くなり、芸術とは無関係な仕事で貯金して、絵描きの夢を追いました。そして、似顔絵と出会ったんです」
三浦さんの両親は、大の音

楽好きで、三浦さんの良き理解者だといいます。「私の『絵を描いていきたい』という思いを、両親はいつでも賛成してくれました。そんな環境だったからこそ、夢を諦めずに、大好きなことを仕事にすることができたのです。両親には、とても感謝しています」

【新発見の日に気付く】
「絵を職業にしたいと思っ
ていても、食べていけるのか心配で、諦めてしまう人も見
てきました。でも、自分の限
界を自分で決めない方がいい
と思うんです。やる気があれ
ば、応援してくれる人が現れ
ます」という三浦さん。似顔
絵を職業にできたことも、仲
間が世界中にできたことも、
諦めずに続けていたからこ
そ、発見できたのだと言いま
す。

「今、仕事をしている時が一番楽しい。将来の夢は、今後も長く絵を描き続けていくことです。そうれば、必ずまた新たなものを発見できると
思うんです」と声を弾ませながら語ってくれました。



似顔絵世界大会の様子
（アメリカ・テキサス州）



Shimadian File #32